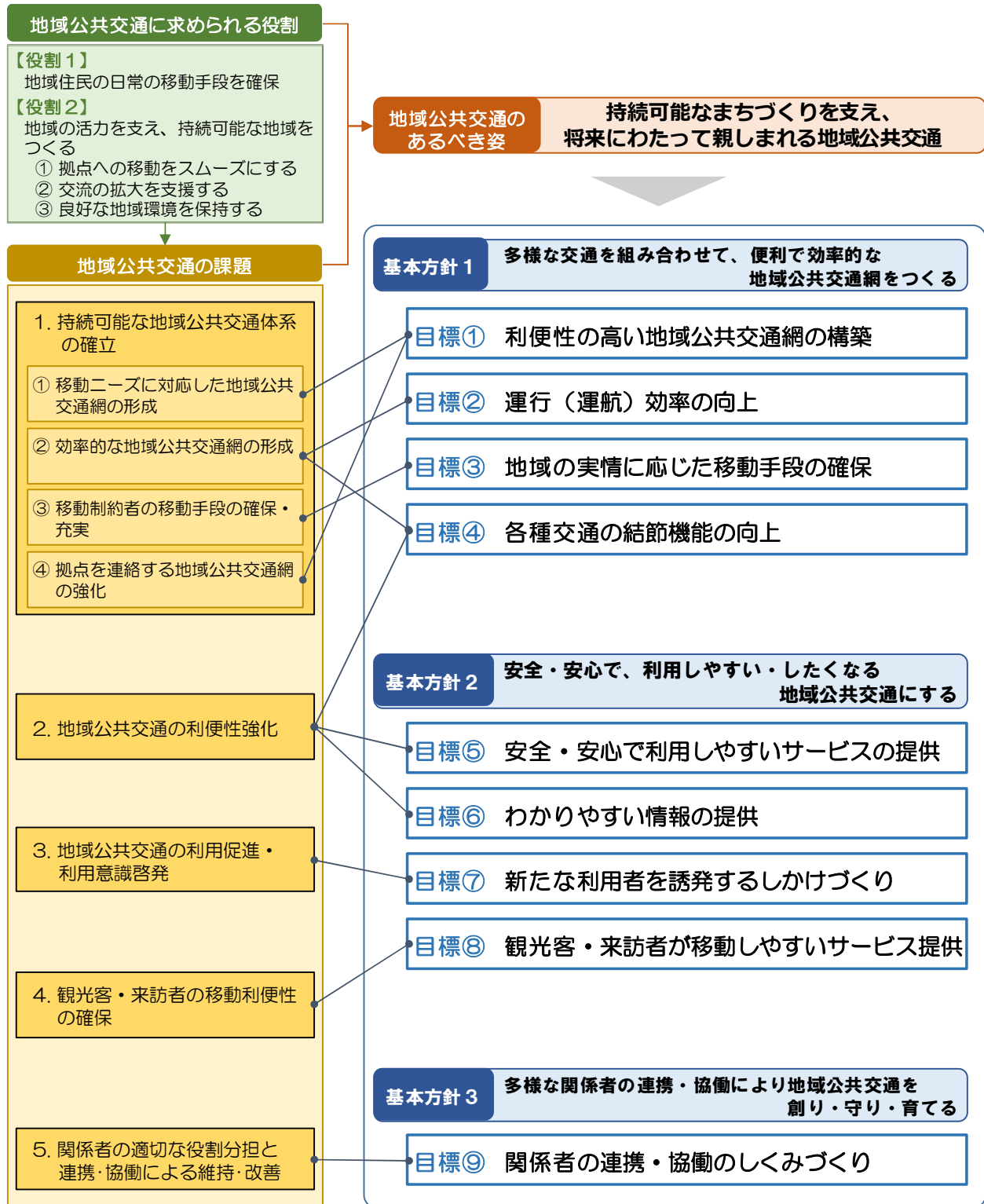


1. 計画の目標

地域公共交通の課題に対し、地域公共交通のあるべき姿（将来像）と3つの基本方針を実現していくため、計画期間中に達成すべき計画目標を次のように設定します。



2. 目標と評価指標

基本方針に対応する地域公共交通の目標と、その達成状況を評価するための評価指標を次のとおり設定します。

基本方針 1 多様な交通を組み合わせ、便利で効率的な地域公共交通網をつくる

【目標①】 利便性の高い地域公共交通網の構築

■ 目標設定について

現在の地域公共交通網においては、公共交通空白地となっている地域も含め、一部において利便性が低い状況となっています。このため、高齢者、学生等の移動制約者に配慮しながら、既存の地域公共交通網を見直し、新たな交通手段を含めた多様な地域公共交通の組み合わせによる利便性の高い地域公共交通網の構築を目指します。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28 年度)	目標値 (H34 年度)
指標① 路線バス・航路利用者の利用満足度	[路線バス] 34.2% [航路] 40.6%	[路線バス] 40.0% [航路] 47.0%

【目標②】 運行（運航）効率の向上

■ 目標設定について

地域公共交通の利用者が少なく、非効率な運行（運航）サービスとなっている路線系統や航路について、交通事業者、地域住民、行政が協議を行い、サービス内容の見直し（運行（運航）ルート・運行（運航）頻度、乗継改善等）や新たな移動手段の導入等により改善に取り組み、運行（運航）効率の向上を図ります。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28 年度)	目標値 (H34 年度)
指標② 収支率 30%未満の路線バス系統のうち運行効率が向上した系統数	29 系統*	14 系統

※平成 28 年度時点での収支率 30%未満の系統数

【目標③】 地域の実情に応じた移動手段の確保

■ 目標設定について

人口減少によって集落が点在している地域においては、住民の移動として既存の路線バスが機能せず、運行が非効率となっている状況があります。このため、地域の実情にあった柔軟な移動サービスの導入、送迎バスやスクールバス等との連携により、高齢者等の移動制約者が安心して利用できる交通手段の確保を目指します。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28 年度)	目標値 (H34 年度)
指標③ 路線バス等の利用圏の人口割合	84%	87%

【目標④】 各種交通の結節機能の向上

■ 目標設定について

便利で効率的な地域公共交通網を形成するためには、多様な交通の乗り継ぎをスムーズに行う必要があり、交通拠点における各種交通の乗り継ぎ機能の向上を図ります。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標④ 路線バス・航路利用者の他の交通機関との乗り継ぎ満足度	[路線バス] 15.3% [航路] 22.1%	[路線バス] 18.0% [航路] 26.0%

基本方針2 安全・安心で、利用しやすい・したくなる地域公共交通にする

【目標⑤】 安全・安心で利用しやすいサービスの提供

■ 目標設定について

市民、来訪者の視点による運行（運航）ダイヤ・便数等の運行（運航）サービスの適正化や、主要乗降場での待合い環境の改善等の利用環境の改善など、交通事業者、地域住民、行政が一体となり、高齢者、学生等の移動制約者にも配慮した利用しやすいサービスの充実を図ります。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標⑤ 地域公共交通機関を利用しやすいと感じる市民の割合	39.1%	45.0%

【目標⑥】 わかりやすい情報の提供

■ 目標設定について

陸上交通、海上交通など市域全体の一元的な地域公共交通の情報や、乗り場案内、ダイヤ、乗換方法等、市民、来訪者が地域公共交通を利用しやすく、わかりやすい情報提供の充実を図ります。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標⑥ 路線バス・航路利用者の情報提供に対する満足度	[路線バス] 16.5% [航路] 24.0%	[路線バス] 19.0% [航路] 28.0%

【目標⑦】 新たな利用者を誘発するしかけづくり

■ 目標設定について

市民アンケート調査では多くの市民が地域公共交通を利用しないと回答しており、交通事業者による地域公共交通の維持継続が困難な状況が懸念されています。一方で高齢化の進展により、将来にわたって持続可能な地域公共交通を維持・確保していく必要性は年々高まっており、地域公共交通の利用意識を醸成するモビリティ・マネジメント等の取組が求められています。乗ってみたいくなる仕掛けや工夫とともに、利用を喚起・誘発し、地域公共交通を利用する意識を向上させる取組を推進します。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標⑦ 路線バスを全く利用しない市民の割合	54.2%	47.0%

【目標⑧】 観光客・来訪者が移動しやすいサービス提供

■ 目標設定について

本市には、国内外から多くの観光客が訪れており、観光による地域公共交通の利用促進の可能性を有しています。一方で、島しょ部をめぐる二次交通（路線バス、航路）などは、利便性が悪い状況もあり、使いやすい観光地アクセスの検討、わかりやすい情報提供や企画乗車船券の導入等による利用促進によって地域公共交通の維持・継続を図ります。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標⑧ 観光目的の航路利用者の利用満足度	57.7%	67.0%

基本方針3 多様な関係者の連携・協働により地域公共交通を創り・守り・育てる

【目標⑨】 関係者の連携・協働のしくみづくり

■ 目標設定について

地域公共交通を維持・確保していくためには、従来の交通事業者主体の運営、また行政支援に頼るだけの対策では限界があります。地域が主体的に地域公共交通へ取り組むルールづくりをはじめ、交通事業者、行政、地域住民が一体となって、地域公共交通を創り・守り・育てる仕組みづくりを推進します。

■ 評価指標

目標に対する評価指標	現況値 (H28年度)	目標値 (H34年度)
指標⑨ 関係者の連携・協働による取組件数	—	2件